

令和7年度

教職課程

自己点検評価報告書

岡崎女子大学

令和8年3月

## 岡崎女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・子ども教育学部子ども教育学科

### 大学としての全体評価

岡崎女子大学は、建学の精神「自己実現と社会貢献」を礎に、「自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉や行動で表現する」という自律的な学修態度を通して学生が現代に生きる女性としての知恵と知識を獲得し、人間的な成長と目標の実現を目指している。本学には、子ども教育学部子ども教育学科があり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得できる。

令和4年度より岡崎女子大学教職課程委員会を設置し、教学部長兼 LO、学部長、学科長、学科担当教員を中心に、教務委員会や実習委員会、学生委員会、キャリア支援委員会などと協働し、教職課程の最新の動向や研修の共有を行いながら、教職課程の質の保証、向上に取り組んできた。教職課程委員会で審議された内容は子ども教育学科の学科会議で報告され、育成を目指す教師（保育者）像の点検を行うなど、教職課程委員会と学科で連携しながら教職課程を運営している。

岡崎女子大学  
学長 春日 規克

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	
	基準領域 1	2
	基準領域 2	6
	基準領域 3	10
III	総合評価	14
IV	教職課程自己点検評価報告書作成のプロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

(1) 大学名：岡崎女子大学子ども教育学部

(2) 所在地：愛知県岡崎市中町 1-8-4

(3) 学生数及び教員数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

学生数：教職課程履修 198 名／学部全体 198 名

教員数：教職課程科目（教職・教科とも）担当 15 名／学部全体 2 名

### 2 特色

岡崎女子大学（以下、本学）は、建学の精神「自己実現と社会貢献」のもと、教員養成を中核とする教育・保育分野の単科大学として平成 25（2013）年 4 月に開学した。岡崎女子短期大学（昭和 40 年開学）との併設形式により、長年にわたり地域における教育・保育人材の養成を担ってきた教育基盤を継承し、人格形成と専門的知識・技能の修得を通して社会の発展に貢献し得る職業人の育成を目的としている。開学と同時に子ども教育学部子ども教育学科を設置し、幼稚園教諭及び保育士の養成を開始した。さらに平成 28（2016）年度には小学校教諭一種免許状の教職課程の認可を受け、幼児教育及び初等教育の教員養成を担う大学として教育を展開している。

本学の教育の特色は、教員養成を大学教育の重要な柱として位置付けている点にある。学生が専門分野における確かな知識・技能を修得するとともに、教育に携わる者としての使命感と倫理観を備え、理想の実現に向けて努力し続けることのできる専門的職業人の育成を目指している。また、自律的な学修態度と知的探究心を基盤とし、実践の中から課題解決の糸口を見いだし、他者との協働の中で社会に貢献することのできる人材の育成を志向した教職課程を含む教育課程を編成している。

教育体制としては、高い専門性を有する教員による授業に加え、クラス指導主任及びゼミナール担当教員による学生指導を通してきめ細かな学修支援を行っている。また、教務委員会、実習委員会、学生委員会、キャリア支援委員会等の学内組織がそれぞれの役割を担いながら相互に連携し、教員養成を支える体制を整備している。これらの取組を通して、教育現場で求められる実践力と専門性を備えた教育者の養成を推進している。

さらに本学は、令和 8（2026）年度より男女共学化を予定するとともに、同年度入学生からは中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程が認可される予定である。これにより、本学の教員養成は幼児教育・初等教育に加え、中等教育までを見通した体系へと発展する。子どもの発達段階の連続性を踏まえるとともに、幼小接続、小中接続等の校種間接続の視点を理解した教育者の養成を推進し、幼児期から青年期に至るまでの学びと成長を支える教員養成を展開していく。

本学は、地域社会における教員養成の拠点としての役割を自覚するとともに、学校現場との連携を通して実践的な教員養成を推進している。地域社会及び学校現場と協働しながら学校教育を担う人材の育成に取り組み、その成果を地域へ還元することにより、地域社会の発展に寄与することを重要な使命としている。今後も建学の精神に基づく教員養成の理念を基盤とし、教職課程の継続的な自己点検・改善を通して教育の質保証を図りながら、学校教育及び地域社会の発展に貢献する教員養成大学としてその役割を果たしていく。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### [現状説明]

本学は小学校教諭及び保育者（幼稚園教諭・保育士）を養成する大学であり、建学の精神、大学の教育目的（学則第1条）のもと、「大学が養成する人材像」として、「Ⅰ深い人間理解と共感力を備えた品格ある女性の育成（人間力）」「Ⅱ高い使命感と倫理観を持つ専門的職業人の育成（専門力）」「Ⅲ知的探究心と実践力を持ち、社会を支える指導的人材の育成（課題探究力・地域貢献力）」と定め、明示している。

また、本学の教員養成の理念は、建学の精神のもと、現代人としての教養と教育分野の豊かな専門知識・技能をもち、子どもや保護者への共感力をもつとともに、高い使命感と倫理観に基づいて現代の教育現場のニーズに応じていける小学校教諭・幼稚園教諭を養成することである。本学は「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものことから、本学の教員養成の理念（教職課程教育の目的・目標）は、大学の教育目的に基づき定められた学部の教育目的と同じである。

学部の教育目標は、「1）現代人としての教養と豊かなコミュニケーション能力の育成（人間力）」「2）専門職としての確かな知識と技能を持ち、教育・保育現場の現代的ニーズに対応しうる小学校教諭・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の養成（専門力）」「3）自律的学習態度・課題探究能力の育成（課題探究能力）」「4）教育・保育分野における実践知と地域貢献力の育成（実践力・地域貢献力）」である。

この理念及び全学ディプロマポリシー（以下：DP）を踏まえ、学部 DP を定めている。また、「学部で獲得する力」や「学力の3要素」と学部 DP の関係を表し、これらを、Web サイト、大学案内に掲載し、学外へ広く周知している。また、履修要項に明記して学生及び教職員に示すとともに、専任教員と非常勤講師が集う講師懇談会や学科会議において教員間で共有し、新入生オリエンテーションにおいて、学生に周知し、シラバスに「授業の目的」「授業の到達目標」を明示している。

本学の教職課程教育（教員養成の目標）は「教育とは教育する者が、子どもとの人間的な関係の中で、子どもの潜在的な能力の開花に喜びを抱きながら共に豊かに育つことである」という教育観に基づき、4年間の学修の中で「子どもとは何か、教育とは何か、学びとは何か」という教育の本質を探究し、多様な科目での学びや実習等で子どもとの出会いを通してその具体的な意味を受け止め、自ら主体的に学ぶ中でその理解を内在化させ、教育現場での実践力へと高めていける人材を養成することである。

DP 及び教職課程教育の目標を達成するために、学部のカリキュラムポリシー（以下：CP）における教育課程編成方針では、「CPⅡ基礎的・一般的学習から発展的・研究的学習へ、という順序性を持った科目配置とする」、教育課程実施方針では、「CPⅢ教室での学びと教育保育現場での実践的な学びを組み合わせた教育を行う」と定めている。カリキュラムの特徴として、1年次の「地域貢献とボランティア（卒業必修科目）」、2、3年次の免許資格に関わる教育実習・保育実習、4年次の「長期フィールド実習（選択科目）」を配置し、教育・保育現場における体験や実習を多く取り入れる科目編成を行い、日頃の授業においても、学内の子育て支援施設や本学付属幼稚園、近隣の小学校等を活用し、実際に子ども達と触れながら学ぶ機会を多く取り入れている。

また、DP・CPの目標・内容を踏まえ、学部のアドミッションポリシー（以下：AP）では特に「APⅡ専門の知識・技能を獲得するための基礎学力や教諭・保育者になるための意

欲・関心・適性を有している」「APIV教育・保育の実践から学ぶ姿勢と地域貢献への意欲を持っている」ことを入学者に求める資質能力として、入学者選抜を行っている。

なお、学部の三方針、教育課程、教職課程については、学部のアセスメントポリシーに基づき評価された学修成果などから、学科会議や教務委員会が、また、教職課程については教職課程委員会がそれぞれ点検を行っている。

### 〔長所・特色〕

本学は、「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、現場経験が豊富な教員を複数名配置しており、小学校教諭・幼稚園教諭に必要な知識・技能を育むための授業を実施している。また、「教員養成の目標」及び各学年・各期における「小学校教諭一種免許状の各段階における到達の目標」「幼稚園教諭一種免許状の各段階における到達の目標」、「教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組」を定め Web サイトで公表している。

また、令和 6（2024）年度は、それまでの課題であった「学部 DP に基づく学修成果を明確に示すこと、学生自身が把握できるようにすること、アセスメントポリシーに基づいた点検・評価結果をフィードバックすること」を改善するため、履修カルテ「学修の記録」を電子化し、卒業までの修得単位数に加えて、DP に沿った学修達成度を学生自身が常に把握し、振り返りを行える仕組みを整備した。さらに、令和 7（2025）年度には、卒業時に授与される学位に付随し、学生が大学でどのような能力や学修成果を修得したかを示すディプロマ・サプリメントを導入した。これらの取組の評価・分析を通して、学生が DP に掲げる学修成果を十分に修得しているかを確認し、教育の内部質保証の強化を図っている。また、その結果は全教員に共有し、教育内容の改善や学修環境の整備等に活用することで、教育のさらなる充実に取り組んでいる。

### 〔取り組み上の課題〕

建学の精神、大学の教育目的、大学が養成する人材像に基づいた学部 DP や、教職課程教育の目標を達成するために、4 年間に亘る大学と教育・保育現場による往還的な学びのカリキュラムを編成し、授業や実習を行っている。学生がこの学びを十分に生かすこと、また、常に社会的ニーズを把握し、点検していくことである。

#### <根拠となる資料・データ>

- ・資料 1-1-1：岡崎女子大学 令和 7 年度 履修要項
- ・資料 1-1-2：岡崎女子大学 令和 7 年度 シラバス
- ・資料 1-1-3：岡崎女子大学 理念・教育目的とポリシー  
(岡崎女子大学 Web サイト：[https://okazaki.ac.jp/about/policy\\_okajo/](https://okazaki.ac.jp/about/policy_okajo/))
- ・資料 1-1-4：岡崎女子大学 教員養成の状況についての情報の公開  
(岡崎女子大学 Web サイト：[https://okazaki.ac.jp/about/disclosure\\_okajo/](https://okazaki.ac.jp/about/disclosure_okajo/))

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関わる組織的工夫

### 〔現状説明〕

本学では、小学校教諭・幼稚園教諭等養成のための職業教育を行い、専門分野に関する学生の知識・技能を深め、研究活動を支援するために、十分な教育研究業績を有する教員の配置をしている。

主に実技・実習科目等を担当する実務家教員と研究者教員のバランスにも配慮している。令和7(2025)年度は、教職課程を担当する15人のうち小学校教諭免許においては10人、幼稚園教諭免許においては8人の教員を配置している。

本学では、クラス指導主任制(1、2年生)、ゼミ担当制(3、4年)を採っており、日常的に学生指導・学生支援を行っている。また、各教員はオフィスアワーを設定し、授業内容に質問がある学生に対し適切に対応しており、これらの情報は必要に応じて学科会議で共有されている。

また、教員と事務職員が協働して多角的な学生支援体制を整えている。学生委員会では学生相談や学修相談、実習委員会では教務課内に配置した実習支援室と連携し、教育実習及び介護等体験等の実習に関する学外関係機関との連絡調整、実習に向けたガイダンス、実習中の学生対応、実習の成績評価について適切に対応している。

教職課程を含む教育課程全般の管理・運営を行うために教務委員会が設置されている。さらに、令和4(2022)年度より、教職課程に特化した自己点検・評価や、実施について協議や検討を行う組織として、学部長、学科長、教学部長、教職科目担当教員、事務職員で構成される教職課程委員会を設置し、他の委員会や組織と連携しながら、規程に基づき教職課程の運営や学生指導を実施している。

教務課は教務委員会と連携し、大学での学修や履修登録、履修指導を行い、実習支援室は実習委員会と連携し、学生が免許・資格に関わる実習に不安なく取り組めるよう努めている。学生支援課は学生委員会と連携し、全専任教員・教務課職員に学生の授業への出欠情報を提供し、欠席過多の学生に対する学修指導につなげている。また、障がいのある学生に対する合理的配慮の内容などについて検討し、学生の学修継続に努めている。キャリア支援課はキャリア支援委員会と連携し、就職試験等の情報の発信、就職に向けた模擬面接や対策講座を企画・運営している。その他、図書館では、図書館の利用方法や蔵書の検索方法の助言、タブレットやノートパソコンの貸し出しなどを通して学修支援を行っている。

これらの学部、委員会の組織的な取り組みに加え、教育の質的向上を目的としてFD委員会がFD研修会を実施したり、教員相互の授業参観、学生による授業アンケート、ルーブリックによる授業評価を実施し、その結果を授業改善に生かしたりする取り組みを行っている。その他、SD委員会や人権問題委員会による学内研修会も実施され、教職課程を実施するための全学的な資質向上を行っている。

教職課程教育を行う上での施設・設備として、講義室、SKホール、ピアノ室、ゼミ室、パソコン室、美術室、小体育室、大体育室、ラーニング・プラザ、図書室、hyggeエリア、自修室、グラウンド、テニスコートを整備し、有効に活用している。また、教職支援室には教職課程の学修や教員採用試験対策関係の資料を配備し、資料の閲覧、自修等ができるようになっているほか、令和5(2023)年12月には、より質の高い学修が展開できるように、実際の小学校の学級教室を再現した「模擬授業演習室」、一般的な保育室を再現した「保育演習室」を設置するなど、更なる教育環境の充実を図っている。

### 〔長所・特色〕

本学は、小学校教諭・幼稚園教諭等を養成する大学であり、実習科目群、専門演習科目群や研究科目群に関しては、原則として教職課程を熟知した専任教員が担当している。実習中の巡回指導は学科教員全員で分担する等、学科として小学校教諭・幼稚園教諭等を目指す学生の支援を行っている。教職支援室では、学生からの学修や採用試験等の相談に対応できる体制が採られている。

本学園は幼稚園（3園）と幼保連携型認定こども園（1園）を設置・運営しており、授業や実習等を通して、実践的に学修できる環境にある。また、市教育委員会や近隣の小学校と連携し、近隣の小学校の先生を招いて授業を行ったり、小学校に出向いて授業を見学したりするなどの取り組みをしている。

全学生に対し、メールアドレス、授業の休講・補講や成績を配信する「OWポータル」、学修管理システムとしての「WebClass」、Microsoft社の「Office365」のアカウントを発行し、学内にはWi-Fi環境（無線LAN）を整備し、有効に活用している。

令和6年度から、実習に向けて質の高い学修が展開できるように、「模擬授業演習室」「保育演習室」の本格的な運用が始まり、多くの学修の場で活用されている。また、ICT教育について、パソコン教室や貸出用PCといった施設・設備の整備だけでなく、情報機器を用いる授業を円滑に運用できるように情報メディアセンターに専門職員を配置し、授業において支援ができるよう人的な面も整備している。

さらに、ピアノ練習室やラーニング・プラザ、図書室、自修室などの学修施設は、授業で使用していないときには、個人でいつでも利用することが可能であり、アクティブ・ラーニングを推進する環境を整備している。

### 〔取り組み上の課題〕

小学校教諭、幼稚園教諭を目指す全ての学生が教職課程を修めることができるように、教職協働で学修支援に取り組んでいる。全ての授業科目で学生の学修状況を把握し、学科会議等で共有を図っており、今後も引き続き教職を目指す学生の修学を支援していく。

パソコン教室、Wi-FiなどICT環境が整備されてきているが、近年、注目を集めている生成系AIの活用方法や注意を払うべき点について理解を深めるための情報リテラシー教育を、教職員、学生に対して行っていくことが課題である。

#### <根拠となる資料・データ>

- ・資料1-2-1：岡崎女子大学 教職課程委員会規程
- ・資料1-2-2：岡崎女子大学 教務委員会規程
- ・資料1-2-3：岡崎女子大学 実習委員会規程
- ・資料1-2-4：岡崎女子大学 学生委員会規程
- ・資料1-2-5：岡崎女子大学 キャリア支援委員会規程
- ・資料1-2-6：岡崎女子大学 学生支援ネットワーク会議規程
- ・資料1-2-7：岡崎女子大学 令和6年度 FD活動報告書

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状説明〕

教職を担うべき適切な学生の確保に向け、本学が定めたアドミッションポリシー（以下：AP）は、Web サイトや大学案内、入学試験要項に示されている。また、オープンキャンパスや各種ガイダンス、高大連携協定を締結している高校との懇談会等においても説明している。入学試験においては、多様な人材の中から、AP に示される資質・能力を有する入学者を選抜するため、様々な入試を行い、評価指標を設け適切な学生を確保している。

本学のアドミッションポリシーでは、特に学部 APⅡにおいて「教諭・保育者になるための意欲・関心・適性」を求めており、教育・保育分野への志向を有する学生の受入れを明確にしている。また APIVでは教育・保育の実践から学ぶ姿勢と地域貢献への意欲を重視しており、教職を担う人材としての基礎的資質を備えた学生の確保を目指している。入学選抜においては、志望理由書や面接、実技等を通して教育・保育分野への関心や意欲を確認し、学力の3要素を多面的・総合的に評価することにより、教職への志向を有する学生を選抜している。特に総合型選抜では出願前に面談を実施し、本学の教育内容への理解や将来の進路に対する考えを確認することで、入学後のミスマッチの防止を図っている。

また、入学前教育を通して教職への関心や意識を高める取組を行っている。入学直後の新入生オリエンテーションや学科行事においては、履修要項に基づき小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得のための要件を説明し、教職課程の履修方法や教職の意義について理解を深めている。さらに、クラス指導主任や教職課程担当教員による履修指導を通して、学生が自身の進路を主体的に考える機会を設けるとともに、教職への志望や適性について確認を行っている。

学生は各学期末に、自身の単位取得状況や成績、教育者・保育者に求められる資質能力について5段階で自己評価を行い、「学修の記録（履修カルテ）」に入力している。昨年度からは電子化され、学修管理システム（WebClass）を活用することにより、各学期の結果がレーダーチャートで表示され、学生が自らの学修状況や教職に求められる資質能力を振り返ることができるようになっている。これらの記録は教員による履修指導や面談の際にも活用され、学生の学修状況や教職への志望を確認するとともに、その継続状況を把握しながら適切な履修指導及び進路指導を行う体制として機能している。

さらに、本学では教職志望の継続的な確認と適性を見極めを行うため、2年次から「学校教育コース」と「幼児教育・保育コース」に分属する制度を設けている。特に小学校教諭一種免許状の取得を主に目指す「学校教育コース」については、通算 GPA3.0 以上または学科平均以上の成績を要件としており、一定の学修成果を有する学生が履修する仕組みとしている。分属希望者には教職科目担当教員による個人面接を実施し、学生の学修状況や教職志望を確認したうえで分属を決定している。

また、教育実習の参加にあたっては履修科目の修得状況に加え、通算 GPA 等の基準を設けている。通算 GPA もしくは直前の学期 GPA が、「教育実習（小）」においては「2.5」、教育実習（幼）においては「2.0」以上を原則としており、学生の学修状況や教職への適性を確認したうえで実習参加の可否を判断している。これらの制度により、学生の教職志望の継続状況を確認するとともに、教職を担う人材として必要な学修成果を段階的に確認する体制を整えている。

### 〔長所・特色〕

本学では、2年次より「学校教育コース」「幼児教育・保育コース」に分属されるため、自己の進路に合致し、過剰な負荷がかからない適切な履修状況が確保されている。また、3年次から全ての学生が専門ゼミナールに配属され、教職について深い理解と高い専門性を有する教員と少人数の学生で学びを深め、卒業研究に取り組んでいる。さらに、小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得に必要な実習に加え、「地域貢献とボランティア」の授業では教育現場や福祉現場でのボランティア実践、インクルーシブ教育士（学内認定資格）資格取得のためのインクルーシブ教育実習、長期的な視野をもって子どもと関わる長期フィールド実習など、実践力を備えた小学校教諭・幼稚園教諭を育成するための実習を行っている。

### 〔取り組み上の課題〕

授業や実習を進める中で、小学校教諭・幼稚園教諭を志望して入学したものの、途中で教職を諦める学生が一定数存在する。また、精神的な不調など特別な配慮を要する学生が増加している傾向にある。合理的配慮を行いながら学修支援を行っているが、多様化する学生への対応については課題も多く、学生一人一人の状況に応じたより適切な指導体制を整備していく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ>

- ・資料2-1-1：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 Web サイト  
(<https://beautiful.okazaki.ac.jp/>)
- ・資料2-1-2：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 大学案内
- ・資料2-1-3：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 2025年度（令和7年度）入学試験要項
- ・資料2-1-4：岡崎女子大学 令和7年度 履修要項
- ・資料2-1-5：岡崎女子大学 「学修の記録（履修カルテ）」

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

本学の教職へのキャリア支援は、専任教員とキャリア支援課職員により構成されるキャリア支援委員会を中心に、非常勤のキャリアカウンセラーとも連携しながら実施している。キャリア支援課には求人票等の資料を整備し、学生が随時閲覧できる環境を整えているほか、個別相談にも対応している。

また、1・2年次にはクラス指導主任が学生生活全般の支援を行う中で、学校教育コース及び幼児教育・保育コースの分属に関する指導や助言を行い、早期から進路意識の形成を図っている。加えて、進路希望調査を定期的実施し、学生の教職志望の状況を把握するとともに、教員及びキャリア支援課が情報を共有することで、学生の志向や状況に応じた支援を行っている。

3・4年次にはゼミ担当教員がキャリア支援課職員と連携し、進路調査カードの作成、受験先の選定に関する助言、履歴書（志望理由）の添削など、教職を中心とした進路支援を行っている。

キャリア支援課では、1年次より進路ガイダンス及び公務員試験合格支援講座等を実施している。2・3年次にはより専門的な合格支援講座を企画・実施するとともに、求人情報の提供や個別相談を通してきめ細かな支援を行っている。特に小学校教員を目指す学生に対しては、学校教育コース担当教員を中心として「オータムセミナー」「スプリングセミナー」「採用試験対策講座」「基礎力アップ！月例講座」などの支援を行う体制を整えている。

さらに、教育委員会や自治体の人事担当者による説明会の実施、OGを招いた交流会（リエゾン陽だまりカフェ）などを通して、教育現場の理解を深める機会を設けている。これらの取組により、学生が教育現場の実際を理解し、自身の進路について具体的なイメージを持ちながら就職活動に取り組める環境を整備している。

令和8（2026）年3月の卒業生数55名のうち、教員免許取得人数は小学校教諭一種免許状16名、幼稚園教諭一種免許状54名である。また、就職希望者55名のうち、小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等への就職者は54名（98.2%）であり、多くの学生が教育・保育の専門職として就職している。その内訳は、小学校教員10名（正規採用8名、常勤採用2名）、公立幼稚園・保育園30名、私立幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園・児童福祉施設14名である。

このように、本学では教員と職員が連携した教職協働の体制のもと、学生一人一人の志望や適性を踏まえながら、教職へのキャリア形成を体系的かつ継続的に支援している。本学は、教育・保育の専門職養成を担う大学として、学生を単に就職させるのではなく、教育現場で責任を果たすことのできる教育者・保育者として社会に送り出すことを目的としたキャリア支援を実施している。

### 〔長所・特色〕

本学は教育・保育分野に特化した単科大学であることから、教員及び保育職への就職支援に重点を置いたキャリア支援体制を整備している。専任教員とキャリア支援課職員が連携しながら学生一人一人に対してきめ細かな指導を行うことにより、教職志望学生への継続的な支援が可能となっている。

また、公務員（教員・保育職）を志望する学生に対しては、採用試験対策講座や面接指導を段階的に実施しており、公務員就職率の向上に寄与している。さらに、OGとの交流会や教育委員会による説明会を通して、教育現場への理解を深める機会を設けることで、学生の就職への動機づけを高めている。

小学校教員の採用に向けては、キャリア支援課のプログラムに加え、学校教育コース担

当教員による採用試験対策講座等を実施しており、教員と職員が連携した支援体制のもとで教員就職を支援している。

### 〔取り組み上の課題〕

近年、教員採用試験の前学年への前倒しや、公務員（保育職）試験の早期化に伴い、学生が学修の途中段階で採用試験に臨む状況が生じている。このため、入学直後から教員と職員が連携したキャリア教育を継続的に実施し、教職課程の履修と採用試験対策を計画的に進められる体制を強化することが課題となっている。

また、学生の背景や志向が多様化していることから、個々の学生の状況に応じたよりきめ細かな就職支援体制の充実が求められている。

#### <根拠となる資料・データ>

- ・資料2-2-1：岡崎女子大学 令和7年度「キャリアアップ講座」開催案内
- ・資料2-2-2：岡崎女子大学 令和7年度 進路希望調査（1年生対象1～3回分）
- ・資料2-2-3：岡崎女子大学 令和7年度「公務員セミナー、オータムセミナー、スプリングセミナー、基礎力アップ！月例講座、採用試験対策講座」開催案内
- ・資料2-2-4：岡崎女子大学 令和7年度「リエゾン陽だまりカフェ～卒業生による仕事の魅力説明会～」開催案内

### 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状説明〕

本学の教職課程は、教員養成の理念及び教育目標を踏まえ、学部ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）に基づき体系的に編成されている。教育課程の編成及び実施にあたっては、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、教職に必要な知識・技能及び実践的指導力の育成を目指した科目配置を行っている。また、教育課程についてはアセスメントポリシーに基づき、学修成果の点検・評価結果や学修状況アンケート、学生による授業アンケート等を踏まえ、定期的に点検・改善を行っている。

シラバス作成に際しては、教職課程コアカリキュラム及び関係資料を教員へ周知し、各授業科目がコアカリキュラムの内容と整合するようにしている。各教科の指導法等においては、デジタル教科書を活用した授業展開を進めるとともに、アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを取り入れ、課題発見や課題解決等の力量を育成している。「教育の方法と技術（ICT活用を含む）」では、教職課程コアカリキュラムを踏まえた授業の実践事例を紹介し、実際の授業展開について検討している。Wi-Fi や有線 LAN が整備された教室を「教育の方法と技術（ICT活用を含む）」や「各教科の指導法」に優先的に配置することにより、ICTを活用した授業実践の充実を図っている。

##### 〔長所・特色〕

単位制度の実質化については、シラバスの「授業計画表」において各回授業の内容と予習・復習内容を示し、「自修について（予習・復習・学生へのフィードバックの方法等）」に単位数に応じた予習・復習の時間数と配分を示している。また、履修登録上の上限単位数を 48 単位とすることにより、単位制度の実質化を図っている。

履修指導については、毎学年末に履修ガイダンスを実施し、学生が自ら履修計画を立てることができるよう指導している。また、教務課窓口において随時履修相談を受け付けるとともに、履修登録に修正が必要な学生に対しては個別指導を行っている。

成績評価の方法及び基準については、全学的な方針のもとシラバスに明示している。成績評価は基本的に各教員の責任において実施されるが、同一科目を複数の教員で担当する場合には協議のうえ適正な評価を行っている。GPA については履修登録総単位数に不合格科目を含めて算出し、学内の各種選考や学修面談等における指標として活用している。また履修登録済み科目の取り消しについては前期・後期ともに登録後修正期間を設け、取り消し科目は GPA 算出対象としないなど学生への配慮を行っている。

学生は 2 年次から「学校教育コース」と「幼児教育・保育コース」に分属されるが、「学校教育コース」への申請時及びすべての学外実習参加に際しては一定の GPA 基準を設けている。教育実習の参加要件となる授業科目の多くは教育職・保育職の資格取得や専門職への就職に不可欠な科目であることから、コース所属要件及び実習参加要件は学生の学修状況を確認する指標として機能している。

さらに、令和 5（2023）年度に設置した模擬授業演習室では、電子黒板やタブレットを常設した ICT 環境のもと、デジタル教科書を用いた模擬授業を実践している。模擬授業では、一人の学生が教師役、他の学生が児童役となり、実際の授業場面を想定した授業実践と振り返りを行うことで、実践的授業力の向上を図っている。このように、本学では ICT 環境を活用し、理論と実践を往還しながら実践的指導力の育成を行っている。

## 〔取り組み上の課題〕

本学では、教員養成の理念及び教育目標を具現化する特色ある教職課程を編成している。また、履修カルテを用いて学生一人一人が卒業や免許・資格取得に必要な単位の修得状況を把握・点検しているが、ディプロマ・ポリシー（DP）の達成状況をより明確に把握する仕組みの整備が求められている。そのため、学部 DP の達成度を評価する DP ルーブリックを作成し、学修成果の可視化と教育改善に活用することが今後の課題である。

## ＜根拠となる資料・データ＞

- ・資料 3-1-1：岡崎女子大学 令和 7 年度 履修要項
- ・資料 3-1-2：岡崎女子大学 令和 7 年度 シラバス
- ・資料 3-1-3：岡崎女子大学 令和 7 年度 学生 GPA 一覧表、GPA 分布図
- ・資料 3-1-4：岡崎女子大学 令和 7 年度 学修状況アンケート
- ・資料 3-1-5：岡崎女子大学 令和 7 年度 学生による授業アンケート

## 基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

### 〔現状説明〕

学部 CP に基づき、教職に必要な実践的指導力を育成するため、授業においてグループ討議やグループ活動等のアクティブ・ラーニングを取り入れている。また、参加型の学外活動を通して実践的な学びを促進している。授業での学びは、学部全体で取り組む「子ども教育フォーラム」や「丘の上の音楽会」等の学修成果発表の機会に結び付けられ、学生が自ら深く考え、体験し、協働しながら問題解決に取り組む学修環境を整えている。

また、本学は教員一人当たりの学生数比率（ST比）が低く、少人数教育によるきめ細かな指導を実現している。特に3・4年次に履修する「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」では、1人の教員が担当する学生数を原則7名以下としており、卒業研究や長期フィールド実習等の研究科目において学生一人一人の学修状況を丁寧に把握しながら指導を行っている。

### 〔長所・特色〕

1年次後期開講の「地域貢献とボランティア」（教養科目）は、建学の精神「自己実現と社会貢献」を具現化する実践的科目である。学生が地域に出て多様なボランティア活動に取り組むことにより、学内での学びを地域社会での体験と結び付け、教育・保育の現場への理解を深めている。教育職・保育職を志望する学生にとっては、免許及び資格取得のための実習に先立ち、小学校・幼稚園・認定こども園等で子どもの生活に触れる貴重な機会となっている。

2年次に「幼児教育・保育コース」に進む学生は、学内認定資格である「インクルーシブ教育士」を取得することが可能である。この資格では実習を含む教育課程を通して、障害のある子どもや外国にルーツを持つ子ども等、多様な背景を持つ子どもへの理解を深めることができる。

また、本学の特色的な取組として、4年次通年開講の「長期フィールド実習」がある。本科目は約8か月にわたり、週1回の継続的な現場実習（通年180時間）を行うものである。学生は小学校、幼稚園、認定こども園等の教育現場において指導者の補助を行いながら子どもと関わることにより、教育者・保育者としての役割や実践的指導力について理解を深めている。実習後には大学において振り返りを行い、実践経験と授業での学びを結び付けることにより、理論と実践を往還する学修を実現している。このように、本学では地域の教育機関と連携しながら、学生が継続的に教育現場に関わる機会を設け、実践的指導力の育成を図っている。

教育実習については、大学及び実習支援室と市町村や教育委員会との連携により実施している。小学校の実習先については、愛知県内私立大学で構成される協議会を通して学生の出身市町村教育委員会が配属先を決定している。愛知県外の場合は、学生の母校及び管轄教育委員会に依頼して実習を行っている。幼稚園実習については、名古屋市は小学校と同様の方法で決定され、その他の市町村については県内養成校による協議会で調整されている。

さらに、本学では卒業生の就職先を教員が訪問し、卒業生及び所属長を対象に「大学で学んだ能力の活用度」に関するアンケート調査を実施している。令和6年3月卒業生では、卒業生の肯定回答率は専門知識90.9%、技能95.5%、考え方81.8%、人間関係59.1%、所属長の肯定回答率は専門知識90.9%、技能90.5%、考え方81.8%、人間関係80.0%であった。これらの結果は学修成果の可視化及び教育課程の点検・評価に活用されており、教職課程の改善にも反映している。

## 〔取り組み上の課題〕

本学では、専門性の高い授業、長期フィールド実習を含む多様な学外実習、地域や福祉現場でのボランティア活動等を通して、理論と実践を往還する教育を展開している。また、「学校教育コース」における小学校教諭一種免許状取得率は100%であり、小学校教員としての就職率も高い水準を維持している。

今後は、本学での学びが教育・保育現場においてどのように生かされているかをより多面的に把握することが求められる。そのため、現在実施している卒業生及び所属長へのアンケート調査に加え、市町村や教育委員会等のステークホルダーを対象とした調査を実施し、実践的指導力の修得状況を把握するとともに、その結果を教職課程の改善に活用していく体制の整備が課題である。また、小学校教員への就職者数のさらなる増加を目指し、教職の魅力を伝える取組の充実も検討していく。

## ＜根拠となる資料・データ＞

- ・資料3-2-1：岡崎女子大学 令和7年度 シラバス
- ・資料3-2-2：岡崎女子大学 令和7年度 「子ども教育フォーラム」プログラム
- ・資料3-2-3：岡崎女子大学 令和7年度 「丘の上の音楽会」プログラム
- ・資料3-2-4：岡崎女子大学 令和7年度 「専門ゼミナールⅠ」配当表
- ・資料3-2-5：岡崎女子大学 令和7年度 学生による授業アンケート
- ・資料3-2-6：岡崎女子大学 令和7年度 卒業研究成績
- ・資料3-2-7：岡崎女子大学 令和7年度 授業「地域貢献とボランティア」の「活動報告会」プログラム
- ・資料3-2-8：岡崎女子大学 令和7年度 進路状況一覧
- ・資料3-2-9：岡崎女子大学 令和7年度 「長期フィールド実習の手引き」
- ・資料3-2-10：岡崎女子大学 令和7年度 「教育実習Ⅱ（小）」実習校一覧
- ・資料3-2-11：岡崎女子大学 令和7年度 「教育実習Ⅱ（幼）」実習園一覧
- ・資料3-2-12：岡崎女子大学 令和7年度 卒業生訪問結果

### Ⅲ. 総合評価

本学は、建学の精神および学部 DP・CP に基づき、教職課程の目的・目標と育成する教師像を明確化し、教職員の共通理解のもとで教職協働による運営と学生支援を行っている。教職課程委員会を中核として、学修成果（履修カルテ・GPA・アンケート等）と実習・就職実績を根拠に自己点検・評価を実施し、改善につなげる内部質保証の仕組みを整備している。

基準領域 1 では、教職課程の目的・目標を DP・CP と整合させて設定し、履修要項、シラバス、講師懇談会、学科会議、新入生オリエンテーション等を通じて学内外に周知している。教職課程認定基準を踏まえた教員配置に加え、研究者教員・実務家教員・事務職員が役割分担し、教務、実習、学生支援、キャリア支援が連携する支援体制を構築している。さらに、模擬授業演習室・保育演習室等の教育環境整備を進め、教職課程教育の実施基盤を強化している。

基準領域 2 では、AP に基づく入学者選抜（面談・志望理由書・実技等）と入学後の履修指導・面談、履修カルテ（電子化）によって、学生の教職志望の形成・継続・適性確認を段階的に行っている。2 年次のコース分属および実習参加要件（GPA 等）を活用し、学生の学修状況を踏まえた支援と指導を行うことで、教職課程の質保証を図っている。キャリア支援では、教員と職員の教職協働により、早期からの進路意識形成、採用試験対策、教育委員会・自治体との連携、卒業生ネットワークの活用を通して体系的な支援を行い、教育・保育の専門職への高い就職実績につなげている。

基準領域 3 では、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、ICT 活用、主体的・対話的で深い学び、模擬授業等を通じて実践的指導力を育成している。教育実習・保育実習に加え、「地域貢献とボランティア」や「長期フィールド実習」等により、理論と実践を往還する学修を継続的に保障している。また、教育委員会や地域の学校園との連携のもとで実習・学外活動を実施し、地域の実態に即した学びを推進している。

一方、今後の重点課題は、①大学が養成する人材像および DP の理解を学生・教職員に一層浸透させること、②生成系 AI を含む情報活用能力・情報倫理に関する情報リテラシー教育を体系化すること、③ステークホルダーの意見をより多面的に収集し、卒業生の実践的指導力が現場でどのように発揮されているかを把握して教職課程改善に反映することである。これらについては、教職課程委員会を中心に、学修成果データ、実習評価、就職・卒業生調査等を根拠として点検を行い、学科会議・関係委員会で改善を決定し、次年度の教育課程および支援体制に反映させる。

以上のとおり、本学は教職協働のもと、学生の確保から育成、実践、キャリア形成までを一体として支える教職課程を運用している。今後は、地域連携・学校現場連携を基盤に、変化する教育ニーズに応答しつつ、共学化および令和 8 年度入学生からの中学校・高等学校教員免許（保健体育）課程の展開も見据え、幼児から高校生までを見通した教員養成の質保証を一層強化していく。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、令和7年4月に開催された岡崎女子大学教職課程委員会において、次の手順にて進めることを確認した。

##### 第1プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会（全学組織）は、学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを組織決定するとともに、実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）の検討及びその決定を行う。

（2025年4月25日学長室会議協議、2025年5月1日・大学・短期大学運営会議報告）

##### 第2プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、本学の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。また、必要に応じて、データ等の取り扱いについて、学科及び関係機関への意見聴取を行う。 （同上）

##### 第3プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む）を検討・協議を行う。 （2025年9月教職課程委員会協議）

##### 第4プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、第3プロセスでの協議を経た後、教職課程の自己点検評価の実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）について最終確認を行い、学科会議に報告する。 （2025年9月学科会議報告）

##### 第5プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、定められた実施期間や報告提出締切期限を前提に、教職協働を基本とした役割分担のもと、対象項目の点検評価を行い、その結果を集約する。 （2026年2月末）

##### 第6プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、集約した結果を点検し、学科への報告・協議を経て、大学としての全体評価を加え「教職課程自己点検評価書」を作成、完成させる。その確定にあたっては、学長への報告・協議を行い、承認を得た上で情報を公表する。

（2026年4月教職課程委員会・学科会議報告）

##### 第7プロセス：

岡崎女子大学教職課程委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向け、実行計画を策定し、2025年度以降のSeiko G PLANに加え、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

（2026年4月～）

V 現況基礎データ一覧

令和7年5月1日現在

法人名 学校法人 清光学園					
大学・学部名 岡崎女子大学・子ども教育学部					
学科・コース名（必要な場合） 子ども教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数など					
① 昨年度卒業者数		60名			
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）		59名			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）		59名			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）		21名			
④のうち、正規採用者数		19名			
④のうち、臨時的任用者数		2名			
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	12名	2名	3名	0名	1名
相談員・支援員など専門職員数			3名		